

ブラジルの金利引き上げについて

2015年3月5日

3月4日(現地時間)、ブラジル中央銀行は定例の金融政策委員会において政策金利(翌日物国債レポ取引金利: Selic)の0.50%引き上げを全会一致で決めました。これで同国の政策金利は12.75%となりました。

引き上げは4会合連続となります。市場関係者の多くが今回の利上げを予想していましたが、前日、上院議会が緊縮財政に関する大統領令を拒否したことで為替レートが急落しており、現在のところ利上げの影響は限定的となっています。

《金利引き上げ決定に至った経緯について》

連続利上げ実施の背景としては、①インフレ抑制、②自国通貨の安定が挙げられます。

①ブラジルでは2014年7～9月期GDP(国内総生産)が前期比で+0.10%と3四半期ぶりにプラス転換しましたが、低成長にとどまっています。景気が低迷する中で連続利上げを実施していることから当局のインフレ警戒は依然強いとみることができます。このインフレは、自国通貨安による輸入物価の高止まりや近年の国際的スポーツイベントや大統領選前の”バラマキ”と称された財政支出の拡張による負の影響とみられます。昨年12月には同国のインフレターゲット内によく収束したものの、今年1月には同ターゲットを大幅に上回る水準に達したことから当局の警戒がさらに強まったと思われる。

②ブラジル・レアルは中東・ウクライナなどの地政学リスクが一旦収束したにもかかわらず、原油、鉄鉱石など資源価格が下落しており主要通貨に対し下落基調にあります。さらには足元での急落もあり警戒感が強まっています。

《今後の景気、為替レートについて》

ブラジルでは景気低迷に加え、以下の不安材料があります。

①急伸したインフレ対策としての金融引き締め、②格付維持(投資適格)のための緊縮財政、③資源価格下落による輸出環境の悪化。

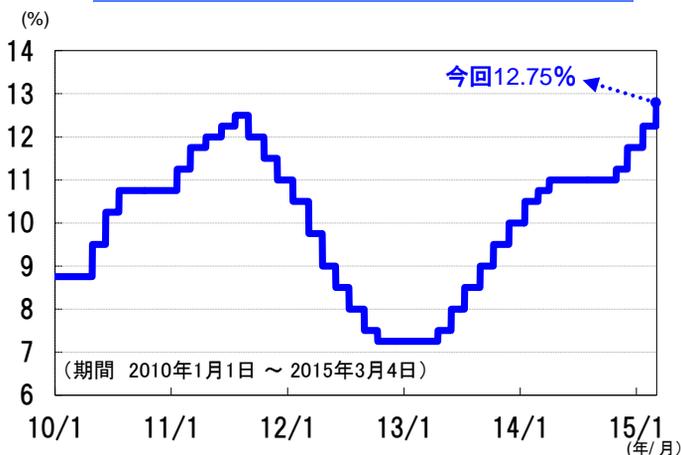
①については、インフレ率の動向次第ともいえますが、為替レートの落ち着きが見られれば、鈍化している景気等への配慮から早晩、金融引き締め策の転換に向かうとみています。

②については、新財務相は歳出削減、増税等を推し進めています。1月の基礎的財政収支は大幅に改善しましたが、景気回復がなければ持続性に限界もあります。民間エコノミスト調査による2015年の経済成長率見通しは-0.58%と低迷が続く予想となっています。

③については、原油、鉄鉱石等の資源価格は下げ止まりをみせていますが、短期間で大幅に持ち直すところまでは見通せません。輸出の過半近くを占める一次産品の価格下落で暫くは交易条件の悪化が続くとみられます。

ブラジル・レアルは、下落場面では政府・中央銀行の自国通貨買いに支えられると予想されますが、反発も限定的と思われる。状況によっては安全資産選好の動きが強まる局面があることも考えられるため、当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《ブラジルの政策金利》



出所: Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ブラジル・レアルの対円推移》



出所: Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。